

本研究プロジェクトでは、本学附属図書館が所蔵する明治時代以来の図画工作・美術教科書のうち、昭和戦前までに出版されたものを対象にアーカイブ化を進めている。

2017年1月から事前状況調査として、図書館及び教職研究室に所蔵されている図画工作・美術教科書について、「美術教育関係収蔵図書目録」や大学図書館蔵書目録との照合調査及び、デジタルアーカイブ化作業を実施する際に必要になると考えられる劣化状態等の調査等を以下のように実施した。

①美術教育関係収蔵図書目録に掲載された明治～終戦までの期間の美術関連教科書について実際の収蔵状況を確認。目録非掲載で、掲載教科書と重複している書籍など、デジタルアーカイブ化の対象となる書籍を決定するための調査。

②書籍のサイズや綴じ、ページ数などの体裁、取り扱いに関わる書籍の破損や劣化の状態等の調査、及びこれらの情報と本学図書館での既存の収蔵情報を関連づけて管理するために、資料ID、請求記号、書籍名などの情報の対応についての確認。

この調査の結果、最終的に854冊を本事業でのデジタルアーカイブ化の対象と決定した。

2017年2月28日には「第1回プロジェクト会議」を開催し、デジタル化された画像データベースの活用方法、スキャン画像データの形式や品質、デジタル化のための外部委託等について検討を行った。

プロジェクト会議の検討結果から、スキャン作業は教科書の劣化状態等を考慮して、取り扱いの難しい古い年代のものと、比較的取扱い容易な新しいものとの2期に分けて委託することとし、2017年6月28日～8月1日に505冊（14051ページ）を対象に第1期スキャンを、2017年10月6日～11月15日に349冊（18176ページ）を対象に第2期スキャンを外部委託として実施した。

この間、2017年9月22日に第2回プロジェクト会議を実施し、研究事業の進行現状報告及び納品された第1期スキャンの画像データの確認、試行データベースのシステムの紹介及び必要となる検索項目等についての意見交換などを実施した。

なお、スキャンによって作成されたデジタルデータを活用するためには、必要とする情報の検索等を可能にするためのデータベースの構築が必要である。データベースについては、単なる蔵書検索のような検索ではなく、美術科教育の視点から教材や素材など各ページに掲載された内容の詳細な検索等が可能となる追加情報を含めたデータベースの構築が必要であり、その研究開発については以下のように進めた。

第1回プロジェクト会議後、データベースシステムの構築の検討・試作を開始し、第2回プロジェクト会議で、試験的に作成したデータベースの実演と、個々の書籍や各ページについて必要とされる検索項目等についての意見交換を行った。

この意見交換を受けて、実際の活用場面を想定し、データの検索に加え、スムーズな情報入力や入力情報の管理を可能にするデータベースシステムの構築に着手することとした。

書籍のデジタルアーカイブ化に関する先行研究なども参考しながら研究を進めてきたが、実際に作業を開始してみると、机上の構想や計画では気づかなかった新たな課題も明らかになってきた。美術教育の研究者だけではなく、多くの人々が閲覧可能なシステムとなり、これからの教育、研究の発展の一助となるよう、システムの完成に向けて研究を進めたいと考える。